

# 人吉の復興まちづくりに向けて：シリーズその④最終回 人吉をどんな町にしたいですか？

## 人吉の魅力づくり・人吉らしさとは？

人吉市民 松本晋一（人吉市五日町）

はじめに

たいと思います。この提案はあくまでも令和3年9月19日時点での一市民の個人的意見です。

1、人吉市復興まちづくり、地区別懇談会中間報告会（8月22日）の内容から

先月8月22日に「人吉の復興まちづくり」地区別懇談会の中間報告会がズームのネット会議で開催されました。先ずその中から4講師の発言内容を個人的にメモしてみました。（アンダーラインは筆者）

○柿本竜治氏（熊本大教授）…人が町に住むことが大事。経営上稼業しなければいけないが、まちづくりの規制や合意形成、その制度をどう活かすかが大切。暮らせる町をつくる

今、被災から1年3カ月。人吉の町のこれからを考えると、本誌上でこれまで3回にわたり私見を述べてきました。この「人吉の復興まちづくりに向けて」の最終回は、これまでの各集会で皆様が発信された意見、個人的に見聞きした内容等を元に、このシリーズのまとめとして「人吉をどんな町にしたいですか？」を問い、まちづくりの中で「人吉らしさとは何か」を私的に考えてみ



鍋屋本館手前から西九日町通り方面

こと、それをマネージするのが行政。何をもちって住民主体とするか、それを市民がどう選択するか、誰も住まない町をつくっても意味がない。まちづくりとは基本的に自発的なもの、それを行政がサポートする。行政の立てる計画は荒っぽいかもしれませんが出来ない、市民ベースでやるが市民も受け身にならないこと。

ため、まちのため、2つの視点でそれをどうつなげるかが大事。話し合いには息子や孫など誰でも入って議論が出来ること。住んでいる皆で新しい町を創る前のこと、創った後のことを論議する。復興は長い時間かかるが丁寧にするべき、若者が行動出来る環境をつくる。それには時間がかかるが早道である。

どつてこなくなる。10年後に対策が出来たら、そこに戻れるようにする。経験則、制度を柔軟にやっていく、後でそこに戻れる方法で魅力的な町にする。

人吉は日本から注目されている。本当にそこに暮らすことが適切か？でも、それを乗り越えて、どう市民が災害に向き合うか、土地利用を含めてチャレンジすること。町が二分されないこと、決まったことは一緒にすすむこと。行政も市民も分け隔てなくやっていく、これは楽しみとなり期待出来ると思う。元氣を出して取り組むこと。

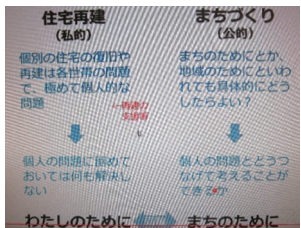
○柴田祐氏（熊本県立大教授）…まちづくりは私的には住宅復興、公的には何をどうしたらよいかを個人の

○西村浩氏（ワークヴィジョンズ代表）…他の町の事例や各地の計画は行政中心で、市民のためにはなっていない。10年後よりも被災から半年後、1年後の住民の実感が大事である。マスタープランもやりながら修正していくことが大事。毎年その計画を見直すべきである。人を集めるために目的を掲げる、生業と暮らしを取り戻すにはスピードが大事、人がも

○内田安弘氏（阿蘇持続可能な社会研究所所長）…将来を見据え今ある土地を利用する。コロナ災害を含めたたたかいていく。住民の理解



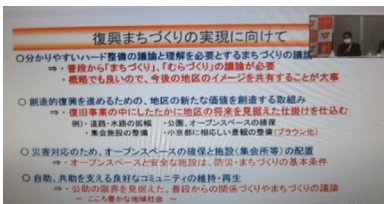
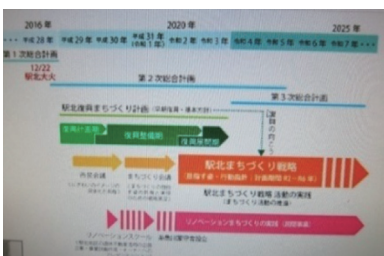
人吉市ズーム会議風景



事業の中の仕掛けをしつかりする。将来はどうなるという情報提供をする↓皆が納得する。住民の積極的な参加で行政の押し付けにしない、自分の課題解決をそこでやる。再建出来ない場所を市が買う↓どう活用するか 例) 防災広場にするなど

○人吉市ズーム中間報告会議での筆者の感想

色々の良い意見(アンダーライン)



が出て参考になりました。どんなまちづくりでも、そこに人が存在していないと始まらない。人が中心でありコミュニティが大事なことです。特に被災者の行動を判断させる内容ある情報提供とそのタイミング、そして開催する会議の目的を明確にすることが大切。さらに復興した後のことも見据えた議論をすること。

今回の会議の難点を言えば、市長を交えた確信を持った提案や意見が少なく、やや総論的であったこと。やはりネット会議ではなく、多くが集える会場を設定して皆で議論して話し合うことが大事な気がしました。西村氏の発言「人吉の復興は日本中の期待である。人吉は日本から注目されている」。このことを忘れていって日々の生活とまちづくり行動をしてゆきたいと思えます。そして大

事なことは復興したこの町の姿・内容がこんな筈ではなかったと言われないうこと、思われないこと、そのようなまちづくりをしないことだと感じています。

## 2、これまでの復興説明会・懇談会 に出席しての個人的感想

- ① 発言や内容が次第に進歩して、少しずつ形になって来ている
- ② しかし町づくりの主体は誰なのか、誰がリードするべきかが曖昧
- ③ その会議から何を引き出そうとしているのか、テーマ性が一貫しない
- ④ テーマに楽しいこと、面白いことが不足。毎回興味あるテーマを設けて話合う
- ⑤ 会議全体のタイムスケジュールや流れ、方向づけが足りない

⑥ 復旧復興の資金はいつ誰がどこから持ってくるのか、その手続き、流れは?

⑦ 補助金を活用するための具体的な手順、方法、運用例が少ない

⑧ それぞれに専門委員会を創って議論する 例) 川と親しむ、古店舗リニューアル

⑨ 他からの支援でより必要なものは何か 例) アイデア、資金、方法、手順

⑩ 家屋をすべて壊してしまおうのではなく、残せる建物はより活用すべきである

## 3、提案・・・これからの人吉のまちづくり

被災した人吉の復興まちづくりは、単に昔の人吉のよき時代を懐か

しみ、その思い出に回帰するのではなく、被災した街にあらためて新しく住む人たちが食事や買い物などの日常生活を始め、新しい人吉の町で生きていく上で必要なものにウエイトを置いたまちづくりであること。

自然や歴史、教育、観光、産業などの地域資源を活かして、あるべき町の姿をイメージして創り上げていくことが大切だと考えます。繰り返しますが、あくまでも過去のノスタルジーを追い求めるのではなく、人吉の自然や歴史を活かしつつ、例えばクルマを町中から遠ざけるなど新しい観点で人吉らしい魅力ある町を創ることが大事です。

町には、遊び、安らぎ、時間つぶし、飲食、会合、職場、学習、旅行、運動、散歩、喧嘩を避ける他、さらに安全や安心など、家や学校、仕事の場に



城内石垣上より見た球磨川の夏 (昭和 32 年頃)

「まちづくりの基本」

「あー、よか町の出来たバイ」と人々が発信するための、「よか町」とは何でしょうか？例えは歩いてみて、クルマで通つてみて、「なんかよかねえ」と言われる、その何かとは、良さとは何でしょうか？ 例えは、それは今



昭和 29 年頃の人吉中心街 (稲留成長氏蔵)

- ・ 昔の街並み、昔の賑わいをもう一度。でもまた水害が来るとすれば本格的な商売は出来ない。商売をやるとすれば、ここでもやっても大丈夫という、その保証、即ち川堀りなどの水害に対する備え、集客の手段、商売を支える資金繰りの保証が要る
- ・ 子どもを含めた若い世代が気楽に来てくれる町を創る、でもこのネット社会でも人吉に来てくれるのか？
- ・ 人吉の売りは自然、歴史、人、産業である。被災中心地にこそホールや図書館など人が集まる場人と人との関係の場、サロンの交流の場が必要
- ・ 人が集まる仕掛けは何か、外資を呼び込む手はあるが、しかし大手のユニクロやスタバが来ても、人吉

の人吉にはない。花と水と緑の自然の潤い、人の営みを軸に据えた人吉らしさのある「ひと、まち、みどり」のまちづくりが大切だと考えます。

では、そのためにはどうすれば良いかを考え、思いだけではなく住む人の意志をその方向(＝生活しやすさ)に向けること、新しい町の日常の在り方、そこに住む人たちの交流と意志統一↓「そうしようとする行動」が大事だと考えます。それにはこの土地に住む私どもこそが、この地域・流域の管理運営と意思決定にたずさわるべきで、コンサルタントや中央の行政マンに任せっぱなしのテーマではないと思われまます。私たちの町ことは、私たちが決めること、すすめるべき事柄なのです。また有名な東京のデザイナーたちにすべてを委ねることもいけません。さらに公的資

- ・ 楽しみに来る人たちはそれを求めて来るのではない
- ・ 人吉は夜の商売で町が汚れる、環境美化を徹底し化粧ゴミ箱を設置し美化を売りにする
- ・ 町の豊かさは箱ものではない、高いビルを創らないこと。せめて3階まで
- ・ 女性の意見、考えを大事にしたい
- ・ 町のコンセプト、統一ロゴを創りたい
- ・ 誇りに思える町 (第6回地区別懇談会9月16日東小学校)
- ・ 時間がゆっくり流れるまち (同上)
- ・ 市民は自分たちの街の歴史、先人たちのことをもっと知るべき (同上)
- ・ クルマが通らない静かな町並み

金を社会的なインフラ整備(道路やダム)に予算を使うのではなく、その分を生かして、生産の中心である人間、町のあり方に資本を投入する方が、より生活の質の向上、人間性の向上にも効果的ではないでしょうか。

「人吉をどんな町にしたいですか？」

1、第6回九日町・紺屋町再生会議の発言から・・・

9月10日、肥後銀行で会に同席の皆様27名に「これからの人吉をどんな町にしたいですか？」をお聞きしました。ABC3グループの発言と、舌の一部を以下に紹介してみます。  
 ・ 土地の人々や観光客は、この球磨川の自然の良さを求めて来る、そのためには自然を生かす町づくり、川が見られる町づくり、そして花

九日町・紺屋町再生会議 提案(たまたま)

前回の主な意見(抜粋)

グループA主な意見

- ・ 市民が集う複合施設が必要 (図書館、喫茶店、九ちゃんクラブ、遊い事教室等)
- ・ フォンドマーク複合商業センターが必要
- ・ 新温泉周辺を中心として賑わつまちを形成
- ・ 飲食店街 (飲み屋) 形成 (新規出店者に優遇を)
- ・ 古民家・石蔵等の維持・活用
- ・ 昔の街並みを残す

グループB主な意見

- ・ まちのコンセプトが必要 (人よし 川よし 人懐よし、桜の社 等)
- ・ 町としての活性化のため公営住宅が必要
- ・ まちなかで子育て世代を支えることが大切
- ・ 名産品を生かして楽しいセンスの良い商店街の形成
- ・ 図書館、個人記念館等が必要
- ・ 城下町として外観統一 (十軒町通り、御宿町通り等)

グループC主な意見

- ・ 人が行き交い楽しいの成り立つまちにする (人が暮らし、商業がある、持続可能な賑わいがある)
- ・ 総合的な場所が必要 (図書館、避難所、買い物等)
- ・ 災害公営住宅が必要 (人は人がいるところに集まる)
- ・ 避難ビルが必要 (新たに建設又は既存建物を活用)
- ・ 球磨川、山田川沿いを活かしたまちづくりが必要
- ・ まちなみの統一が必要 (小京都をそのまま活かす)

九紺再生会議ABC3グループの前回意見

- ・ 治水の前にはまちづくりを優先
- ・ 未来の人吉を見守り、励ます歌、詩、メロディを創りたい
- ・ 空き地ばかりの西九日町の現実、これを具体的にどう解決するのか？ (つづき)
- ・ 同じ会議の繰り返し、次は誰が何をやるのか、これからどうなるのか？ (つづき)
- ・ 協議した内容を今後はこうなると復興スケジュールを早く示して欲しい (つづき)

2、「読者の広場」人吉新聞9月「のまちづくり投書から」…

・住民本来の要求を具体化した形のまちづくりが出来るかを協議会、専門家、現地相談所、合意形成をマネージ出来る人材が必要、災害に強い住と商の調和する共存のまちが目標（9月13日）

・水害の不安よりも魅力ある商店や事業所や土地の活用など、それに勝る町の価値をつくる。それと自然豊かな公園都市、美しい街を再生する（9月15日）

### まとめ

“人吉の魅力づくり”としてや  
りたいことⅡ「おひとよし」づくり  
次に「あなたは、この人吉の町を  
どんな町にしたいですか？」の共通

項を探ってみました。

人吉は「ひとよし」の町のその名の通り、この町の人の良さが、九州そしてこの地の吉（よ）き文化を創りました。その“お人よし”の文化Ⅱ「おひとよし文化」をしつかりと創り、伝え、守り、形にゆけたらと思います。その具体例が本誌8月号で述べた人吉文化交流館「おひとよし」創り（案）です。人吉の町は「おひとよし」な新しい「人づくり」Ⅱ人吉づくりを目指しましょう。人吉の町の良さは、自然と歴史、文化を担う人、培う人、人そのものが宝なのです。

○町のあり方、考え方（コンセプト）の二例…

『人吉は 人よし 川よし 人情よし、町よし 酒よし 温泉よし、の町です』



第6回地区別懇談会・九日町グループ（東校）

「あすこに住む人たちは人間のヨか  
でなアと、言われる町づくり」  
人吉の魅力Ⅱ人吉文化Ⅱ「おひと  
よし文化」を創りましょう

そこで大事なのが人吉に居る人々、  
そこに住む人たちです。それを「お

ひとよし」と呼び、その人たちが創る文化を仮に「おひとよし文化」と呼称してみましよう。私たちは同じ土地に住み、同じ時間、同じ時代にこの人吉の昔と今（現実）、そしてこれから生きる人間です。その人々が生活の場“おどんたちの街・新し  
か人吉”を形成してゆくものと思  
います。老いも若きも、年齢や立場  
町内枠を越えたご近所同士の団らん  
づくり、相互の交流が大切です。そ  
の交流の場が町の中央に位置する近  
代文化の拠点、人吉文化交流館「お  
ひとよし」（仮称）です。

人吉の新しいまちづくりの問題解  
決には、先人の知恵を借り、現代人  
の考えを募り、未来人（若者）の願  
いを元に“夢を形にしていける努力”  
が必要なことと思われれます。そし

て大事なものは、これからの人吉の町を「こう思う、こうしたい」という、市民・住民・在民の願い、思い、意志のちから、だと考えます。このことは先日、人吉の偉人・高木惣吉の追悼文「高木惣吉先生を偲ぶ」の記述を読んで感じたことです。これからの日本の将来への対世界作戦づくりと同様、“人吉のまちづくり”にも必要な情報とその内容分析、方針決定と実行など各種の“戦略”が、その時その時代の日本、そして人吉の町、これからの方向付けるに違いないと感じるのです。思えばあの明治期末に人吉に肥薩線（当時は九州線人吉本線）を引いた代議士・渋谷礼たちは、今どんな思いで被災したこの人吉の町、そして肥薩線の被災状況を眺めているのでしょうか。先人たちが語りたであろう彼らの呟きを彼

らの目線で探ってみたいところです。

そして、まちづくりはオーケストラです。夫々の楽器のパートがあり、ソリストが曲を引き立て、全体をコ  
ンダクターがリードします。目指す  
ところはその音楽（人吉のまち）を、  
その生活を「よかなア」とゆつくり、  
たつぷりと楽しむことではないでしょ  
うか。演奏する側とそれを聴く側  
その音を響かせる場があつてこそその  
コンサートです。その音色を皆で奏で  
る処、そのコンサートホールが人吉  
の町全体なのかもしれません。

それに花を添えるのが、被災した  
今の人吉にはない“花と水と緑の自  
然の潤い”です。人吉の町には音楽  
と共に、人吉らしさを引き立てる「ひ  
と、まち、みどり」のまちづくりの  
工夫が必要だと感じています。

季節は今、丁度秋のお彼岸。昨年7月の被災からの復興にはどうしても経済が必要ですが、お金の煩惱から解脱して、これから“おどんたちの街・新しか人吉”への楽しい夢路を皆様と共に微睡まどろみみたいと思えます。皆さま方の其々がこの人吉という町のこの場所で、球磨川と共に同じ人生（水の流れ）を歩んでゆくのです。他にもやりたいこと、語りたことは山ほどあるのですが、もう時間がそれを許さないかもしれませぬ。そろそろ“人吉の新しいあるべき姿”を見定める時に来ているように思えます。

「時間を大切に使うことは、自分の限りある命を活かすことである」

（令和3年9月のカレンダー標語より）

「ブーテンの寅さん」ではありません

んが、「夢をつかむのは、おめえだよ、夢を見るのもおめえだよ、人の夢みてどうすんの！」が大事なことです。皆様と共に“この町で生きる”その夢を、これからの人吉のまちづくり、人吉らしさを考えていきたいと思えます。



昔の球磨川散歩道路（水ノ手橋下流・昭和30年頃夏）

#### 〈参考資料〉

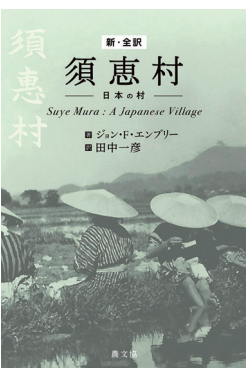
- ・“人吉の復興まちづくり”に向けて…シリーズその③「人吉の魅力を創る2つの提案」松本晋一くまがわ春秋第66号（2021.9）
- ・高木会「高木惣吉先生を偲ぶ」平成3年7月
- ・渋谷勝英「渋谷礼遺翰」昭和36年8月
- ・養老孟司、岸由二「環境を知るとはどういうことか」2009年PHPSW新書
- ・岸由二「生きのびるための流域思考」ちくまプリマー新書 2021年
- ・第12回球磨川アカデミア抄録集「寅さん・人吉へ！」令和2年10月10日文庫

〈筆者連絡先〉熊本県人吉市五日町75（〒868-0035）TEL 0966・22・2928〈

# 田中一彦『新・全訳 須恵村』補論

エンブリー『須恵村』の特徴はどの点にあるか。

エンブリーは27歳のとき須恵村を調査し、それを文章にまとめ、31歳のとき著作として出版した。『須恵村』はいわば若い研究者の作品である。専門的には未熟性がどうしても残る。「人類学」という領域がそもそも学問的に緻密化されてはいない。したがって、「科学」という視点でみると、エンブリーの『須恵村』は不十分な点がある。しかし、それを上回って余りあるものがある。



彼は学問的枠組に拘束されることなく、いわば自己の感性にしたがって調査をすすめる書にまとめた。たとえば、

「球磨地方の気候は、十二月から三月まで寒く、初霜は十月下旬から十一月上旬に、晩霜は四月に降る。秋の夜は谷間に深い霧が立ち込め、朝の空気を冷やしクモの巣を銀色に変える。十時から十一時までには陽が当たって銀色の巣を乾かし、空気を温める。」

とする一文がある（49頁）。「科学」を重視する研究者であれば、「深い霧が立ち込め」とか「クモの巣を銀色に変える」といった表現をしないだろう。エンブリーの文書は文学者の表現であり観察である。しかし、丸山真男も言っているように、文学は事実を捉える力をもつ。この一文を読むだけで須恵村の秋から春にかけての情景が自然に浮かんでくる。エンブリーの感性は『須恵村』